



学校園だより

# 良樹細根

丹波篠山市立  
たまみず幼稚園  
城北畑小学校  
1月の1



まだまだ走り続けます。朝は身体を動かす活動から始めます。マラソン大会はすでに終わりましたが、グラウンドの状態がよければ年度末まで継続し、丈夫な足腰をつくっていきます。室内では、物語にピアノをのせ、話の内容並びにピアノ



や先生の言葉のリズムに合わせて自己表現を楽しんでいます。走る、跳ねる、転ぶ、歩く、止まる、這う等々、様々な動きを繰り返すことで身体機能の向上もねらっています。友だちの動きが時には刺激になりさらなる動きへと発展する姿が見られるなど、全身を使って表現しています。先日、年長組では卒園に向けての冊子づくりに取りかかっていました。「静」あり「動」ありの園生活を送っています。元気です！

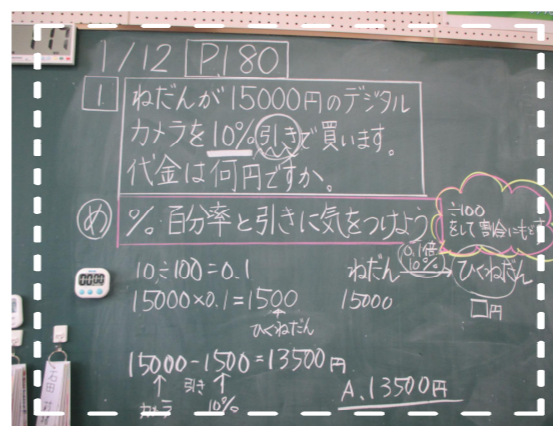
●単元名：変わり方・・・1辺が1cmの正方形を並べて、階段の形を作ったとき、段の数とその周りの長さを求めるというもの。団の数も変わっていくと同時に周りの長さもともに変わっていくという、2つの数量の関係を表に整理して、変化の特徴を考察していきます。また、考察に用いた表現や結果を振り返って、得られた結果を分かりやすい表現に工夫するなど、よりよく問題解決する態度を養っていきます。この学習は、5年生の比例、6年生の比例・反比例の学習に繋がっていきます。

1cmの正方形1つだけだと、周囲の長さは4cm、階段状に2段にすると8cm、・・・10段にすると・・・。個人思考のあと、友だちにお互いの考えや分かったことなどをノートを使いながら交換し合います。みんなが着席した後、集団思考の時間に移行します。一人の子どもが発言しました。教師が今の発言が理解できたかどうかみんなに聞き返しをします。それに応えるようにまた一人、児童が発言しました。別の児童が、なぜそうなるのか質問しました。一人の発言が友だちの発言や質問に繋がる、バトンパスができた、よい授業を参観しました。私自身、教師を何年やっても満足いく授業はなかなか展開できませんでした。次から次へと意見や質問が飛び交う授業、子どもが活躍する授業、一つの課題にみんなが向き合い、結論を導き出し、みんなで共有する授業を追い求めなくてはなりません。焦らず、ひるまず、コツコツと努力していきます。

まだまだ走り続けます。朝は身体を動かす活動から始めます。マラソン大会はすでに終わりましたが、グラウンドの状態がよければ年度末まで継続し、丈夫な足腰をつくっていきます。室内では、物語にピアノをのせ、話の内容並びにピアノ

## 研究授業

今年度最後の校内研究授業を4年担任村上教諭が行いました。丹波教育事務所及び市教育委員会教育研究所からお一人ずつ、京都女子大学から坂



白菜1割引、電気ケトル30%引き、洗剤10%増量等々、広告を見ながらいくら支払えばよいのか、計算機を使うのもいいでしょう。むしろ計算機を使って、このての問題に慣れることが大切です。中学校における「数と式」領域や「関数」領域などの考察にも生かされるものです。すらすらと解けるように、家庭でも今のうちに折込チラシ等を見て学習を積んでください。



## 五年生では・・・

算数科で5年生といえは割合の問題が教科書に登場します。先日、次のような課題に取り組みました。「値段が15,000円のデジタルカメラを10%引きで買います。代金は何円ですか？」児童にとっては難問です。15,000円の10%に相当する値段を求め、15,000円から引く方法と、15,000円の90%に当たる値段が代金だと考える方法とがあります。日常生活においても、百分率や歩合等を使ったものをよく目にします。特に、新聞折り込みに広告があります。そこには、全品5%OFF、ロールケーキ10%引き、

## ビブリオバトル!

21日(金)3年生教室でビブリオバトルが展開されました。

◎ビブリオバトルとは・・・京都大学から広まった輪読会、読書会、または勉強会の形式で、「知的書評合戦」とも呼ばれています。誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームで、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がっています。公式ルール①発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。②順番に1人5分で本を紹介する。③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関する討論を2～3分行う。④全ての発表が終了した後に「ど

の本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

さて、3年生教室では、「本はいいなあ」「給食番長」「いきもの最強バラエティーシャレナンデス」「パンどろぼう」「宇宙のクイズ図鑑」「動物最強王図鑑」の6冊の本をそれぞれ6人の児童がその本の良さを発表します。時間は1分。

「わたしがしょう介する本は、動物最強王図鑑です。実さいには、たたかわない動物たちの知しきをもとに、勝ち負けを決めていく本です。すきなところは、たたかひのルールが書いてあったり、百七十センチある成人男せいと、くらべたりして、どのくらい大きさや小ささが分かるし、分るいや体重が書かれていて分かりやすいし、動物の力が分かって、どっちが強いとか、どんな強さがあるかなどが分かることです。さい強王シリーズは、この他には六かんあります。今いない生き物たちのたたかひもあって、おもしろいです。ぜひ、手に取って見てください。」(子どもの発表原稿)

1分間発言しようと思えばなかなか長いです。しかも、聞き手に分かりやすく、ポイントを絞って発表しないとよいアピールができません。この日、本の紹介をした6人の子どもたちは、それぞれ声も大きく自分の思いをはっきりと伝えることができました。素晴らしいです。これも自信に繋がります。全員の発表が終わった後、投票しました。そして、担任の先生がチャンプ本を発表します。6人の児童は、顔の前で祈るようにして手を組んだり、下を向いて目をつぶったりしていました。心地よい緊張感が教室に広がる中、「パンどろぼう」と発表があった後、教室の中は拍手で包まれました。上の写真は、チャンプ本が決まった瞬間のものです。家で週に1～2日しか本を読まない本校児童の割合は50%を占めています(アンケート結果より)。読み聞かせの会に来て頂いたり、読書時間を設定したり、読書通帳を活用したりするなど、今後も工夫を凝らし、本に興味を持たせるようにしていきます。